

令和4年度 第2回社会教育委員会議録

令和5年3月16日(木) 13:30~15:00

市川市生涯学習センター 3階 第2研修室

■出席者

- 社会教育委員 千坂行雄委員長、富田勇人副委員長、
望戸千恵美委員、伊藤潔委員、遠藤恵子委員、清水輝和委員、藤城留美子委員、
宮本均委員、逸見総一郎委員、野澤順治委員（10名）
- 生涯学習部 三浦青少年育成課長、澁谷社会教育課長、杉本柏井公民館管理運用マネージャー（館長）、藤田西部公民館長、安永中央図書館長、杉山考古博物館長
- 学校教育部 榎本学校地域連携推進課長
- 事務局 宗像主幹、皆川主幹、深津主任、浮谷主任主事、藤沼主任主事、島田主事
(社会教育課)

■会議録

発言者	内 容
千坂委員長	・市川市社会教育委員設置条例に基づく会議成立の確認
社会教育課長	<p>(1)学習交流施設 市本の廃止について</p> <p>過去の会議の中でもお話しをさせていただいているが、学習交流施設「市本」は、本を介した学びと交流の場を提供し、コミュニティの形成を促進することにより、市民等が学び続けられる環境の醸成を図ることを目的として令和3年11月3日に開設された施設である。</p> <p>市本は、運営経費として、令和4年度当初予算額では31,104,000円を計上していた。しかし、来館者数については、資料右上のグラフのように、開館月の令和3年11月をピークに緩やかな減少傾向を示している。令和4年8月には児童向け絵本とのタイアップイベントを実施したことで親子連れを中心に一時的に上昇を見せたものの、その後は減少傾向となっており、経費に見合った効果が出ているとは必ずしも言えない状況であった。</p> <p>また、各種SNSのフォロワー数についてもマスコミ等で取り上げられたときや、イベントのゲスト出演者が自身のSNS等で紹介したときは一時的な増加がみられたが、それ以外のときは大きな伸びが見られなかった。</p> <p>こうした状況から、今のまま運営を続けたとしても当初想定していた政策効果である、本を通じた学習及び交流の場を提供し、コミュニティの形成を促進することにより、市民等が学び続けられる環境の醸成を図ることは困難であると判断したこと、令和5年度予算の編成過程において、給食費の無償化や駐輪場の高校生以下減免などの子育て施策やクリーセンターの建替えなどを優先に実施することなどから、市本を令和5年3月31日をもって廃止する旨の議案を市議会2月定例会に提出した。なお、去る3月7日に本会議にて議決され、廃止が正式に決定したところ</p>

千坂委員長	<p>である。</p> <p>今後については、現時点では未定だが、市長も記者会見で言及していたように、より多くの方にとって有意義な施設にしていくため庁内で検討していく。</p> <p>市本で取り扱っていた書籍や、立ち上がった活動等は今後も活用できるように教育委員会の中で検討する。</p> <p>ただ今の説明について、ご意見等あるか。</p>
宮本委員	<p>元々想定していた政策効果というものは、来館者数で測れるものではない部分もあると思う。コミュニティ形成の促進の部分について、私が知りうる限りでコミュニティ活動も2つほど立ち上がったと聞いている。もう1つできつつある、というところで廃止が決まったという状況。確かに利用者数は少ないが、間違いなく、当初考えていた「交流の場」としては機能していた、ということはこの場を借りてお伝えさせていただく。</p>
千坂委員長	<p>活動が2つ立ち上がったとのことだけでも、成果が上がったと言っても良いのではないか。どうしても来館者数を考えてしまうが、コミュニティの形成という部分では一定の成果だろう。</p> <p>当初の経費で3,000万円というのは中々の額だと感じた。行かれた方はご存じと思うが、あのスペースを運用するのにこれだけかかっているのだということと、説明いただいたことを踏まえると大変なこと、苦労もあったのだろうと察する。</p> <p>その他ご意見等なければ、次の議題に移る。</p>
学校地域連携推進課長	<p>(2)学校と社会教育施設の連携・協働について</p> <p>資料に掲載しているのは「市川版コミュニティ・スクール」のイメージ図である。中心左に学校運営協議会があり、右に地域学校協働本部がある。学校運営協議会は全校・全園に設置され、教育委員会から任命された地域住民の代表、保護者の代表、学識経験を有するものなどの各委員が一定の責任と権限を持って学校運営に参画しており、「学校にある学校応援団」と呼んでいる。地域学校協働本部は、各中学校ブロックに設置され、「地域にある学校応援団」と呼んでいる。地域学校協働活動推進員を中心に学校のニーズを引き出し、地域のネットワークを活用して、様々な教育活動や地域活動をサポートする、いわば地域と学校のパイプ役である。</p> <p>この2つが両輪となり、社会に開かれた教育課程の具現化をするために、各地域に点在する地域ネットワークを活用し、子どもの育成を目指し事業を展開しているところである。そして、それらの地域環境の中には、青少年相談員をはじめ、自治会、こども会に至るまで様々なネットワークがある。その中のひとつに公民館があり、今回は、是非とも公民館に学校との連携を更に図ってもらい、コミュニティ・スクールの仕組みや、地域活動への理解を持って共に活動してもらいたいという思いである。</p>

次に、資料文中にもあるように、公民館は「つどう」、「まなぶ」、「むすぶ」機能を持った、人づくり、地域づくりを促進するための社会教育施設であり、更には長年積み上げてきた生涯学習のノウハウがある。それは、まさに活用しない手はないと考えている。

具体的に公民館の携わりとしてどのようなものがあるかという、資料中にお示ししているが、まず「学校運営協議会委員に公民館職員が参画する」。こちらは実例として現在参画がある学校運営協議会を紹介させていただく。柏井公民館（第五中、県立市川大野高等学園、柏井小）、若宮公民館（第四中）、鬼高公民館（鬼高小）、幸公民館（塩焼小、幸小）、市川駅南公民館（大洲中）という状況である。

2つ目。「地域学校協働活動推進員が公民館職員と知り合う機会を設け、地域のネットワーク機能を強化する」。3つ目。「学校での学びに公民館を活用する」。こちらについては柏井公民館、西部公民館の先行事例があるので簡単に紹介する。

市川大野高等学園の生徒が柏井公民館に来て公民館の陶芸・粘土細工の主催講座への参加。柏井公民館サークル協議会役員の方が柏井小の放課後まなびクラブに参加。第五中卓球部に卓球サークルの有志が指導員として参加。柏井小家庭科の指導に和裁サークルの有志が参加。書写サークルによる書初め指導。読書会サークルによる読み聞かせ、また、柏井小、柏井保育園の児童・園児の作品を柏井公民館内でコミュニティギャラリーとして展示、などが報告されている

学校が求めていることを、公民館がサークル協議会とコーディネートし、実施した形として報告を受けたものである。

続いて、西部公民館については、柏井公民館の例等を踏まえ、公民館近隣の学校との交流活動に関するアンケート調査を各サークルに対し実施し意見を募るなどの活動を進めている。

これら事例の取り組みは各公民館管轄の学校や地域で、今どんなことが起こっているのか、また、どのようなことが求められているのかなど地域情報の把握にもつながるほか、逆に公民館側からも発信する場にもなると考えている。

最後に、これら事例を踏まえての今日的課題について、あるいはより高みを目指した目標として不登校支援や学習支援のニーズが高まっており、子どもたちのサードプレイスとして公民館を活用できれば、地域全体の安心感や家庭の負担軽減、教員の業務改善、放課後の児童の見守りなど望ましい成果につながると考えている。是非、市川版コミュニティ・スクールの仕組みを活用しながらより良い地域、より良い市川を作っていきたいと考えている。最後に、取り掛かりの第一歩として、先ほど5つの公民館の職員が学校運営協議会委員として参画していることを紹介したが、その他の公民館職員にも、是非コミュニティ・スクールを理解してもらい、各管轄の学校の運営協議会に委員として参加してもらい、学校と地域のつながりに一役買ってほしい。それは子どもたちの学習に役立てるのはもちろん教職員、保護者、地域住民の学びを促進する方策を探るためにも必要であると考えている。また、これらの参画は全館義務化ではなく、できることから、できるものから進めてもらえればと思っている。

千坂委員長	<p>ただいま説明いただいた中で、柏井・西部の両館の話があったが、今日は両館の館長が臨席している。補足など話していただければと思うがいかがか。</p> <p>(委員より意義の無い旨発声あり)</p>
千坂委員長	<p>では、柏井公民館から願います。</p>
杉本館長	<p>先ほど、紹介された取り組みの下地を作ったのは前館長である。また、諸々のサポートを受けながら、学校・保育園なども含めた地域とのつながりづくりをこの一年間進めてきた。特に、社会教育課の指導を仰ぎつつ教育振興基本計画に沿って、公民館を活用した地域の学習拠点として、柏井公民館では「明るく元気な地域づくりの一翼を担う」を職員の合言葉にし、公民館が核となる、または地域の学校・保育園・自治会・福祉施設など様々な方の交流の場の提供、更には団体相互の情報発信を支援することとして講座の実施や地域活動の支援に取り組んできた次第である。</p> <p>さて、学校との連携の部分に焦点を絞り紹介させていただく。着眼点としては地域性や特性を活かすというところ。スタートとしては、前館長が特別支援教育に造詣が深く市川大野高等学園の前校長ともつながりがあったというところである。そこで、まず主催講座に生徒を招いて実施をするところに至ったものである。その際には窯業コースの生徒たちが講師となった。文化祭での食品の販売にも協力をいただいていたと伺っている。今年度に関しては生徒を講師にしての実施はコロナ禍ということもあり見送ったが、一方では生徒たちを受講者とした卓球講座を公民館を会場にして実施した。特に、地域に卓球のオリンピック競技で審判を務めた方がいたことから、この方を講師として、年末に全4回講座として実施し、6, 7人と少数ではあったものの嬉々として参加いただいたところである。これをきっかけに、できればサークル化して現役生、卒業生、いずれは地域の生涯学習につながっていく学びの場として公民館が活用できるようになればと思っている。</p> <p>2つ目として、昨年度スクールギャラリーとして柏井小・第五中・大野高等学園の児童生徒の作品を館内で展示をする試みを行ったが、今年は対象を保育園にも広げ、ゆくゆくは自治会など地域の方のギャラリーとして活用できることを念頭に「スクールギャラリー」から「コミュニティギャラリー」に名称を変え、9月をスタートに1か月ごとに展示を切り替え、1月後半には柏井小の書初め作品の展示を行った。絵画、図工など造形作品から家庭科の作品まで受け入れ展示させていただいた。</p> <p>更に、発展として、大野高等学園との人材交流の支援ということで、図書館支援のために、公民館で読書サークルの活動をしている方から派遣させていただいた。</p> <p>小学校については先ほどもあったように和裁・書道などのサークルの方がまなびくらぶなどに参加している。中学校についても、夏休み期間に卓球部に参加してもらったが、公民館で活動している方は高齢の方が多いので、中学生との関わり方について、学校側にも理解をいただく必要があり、とまどいも感じたと聞いている。</p>

千坂委員長	<p>校長からは、公民館の文化祭の準備、あるいは当日のボランティアとして生徒を派遣できないか、という話を伺っている。</p> <p>最後になるが、今後公民館が年を追うごとに深まっていくために、数値化して捉えていくこととして、アンケート調査を実施するなどが一つ。また、学校運営協議会や中学校ブロック、自治会などのまとまりがある中で公民館のできることを模索していきたい。</p> <p>質問等は両館の話が終わってから一括して行うので、続いて西部公民館より話しをお願いしたい。</p>
藤田館長	<p>昨年の6月に公民館運営審議会があり、そこで柏井公民館の事例に感銘を受けたため、自館でも何かできないか、と思い取り組みを進めてきたところである。実績という部分ではお伝えできるものがあまり無いが、これからのビジョンについてお話しできたらと思っている。</p> <p>西部公民館としては、公民館を核として、どういう地域づくりができるのかという点において説明させていただく。まず、今年度行った事例として、公民館主催講座の周知について、情報紙だけでは申し込みが伸びなかった講座に関して、その周知を学校や自治会にお願いした。実際に行った講座としては公民館の屋上を会場とした「星空観望」や、ビオラの演奏会があった。近隣の中国分小学校や国府台小学校の校長に相談したところ、快諾いただけたことから校内で掲示をさせていただくことができた。また、「星空観望」については中国分自治会にお願いをし、掲示場にポスターを貼らせていただいたところ、当初応募者が4名だった状況から最終的に39名の応募を受けるに至った。はじめは年齢を小学校4～6年生に絞っての募集だったが自治会の掲示板に貼る際に年齢制限を撤廃し案内をした。次に園児・児童の公民館見学について。各学校でも行われている社会科見学で国府台小の2年生が見学に来た。公民館がどういうところか、どういうことができるのかをひらがなで示しつつ図書館や体育館など館内施設を見学した。もう一つは、館の隣にある中国分保育園の園児が見学にきて、屋上を訪れた。ただ屋上に上がってピクニック、というだけではと思い館内にある表示や誘導灯、消火器等を使った「防災クイズ」を行いながら見学していただいた。</p> <p>ここからビジョンについてだが、まず公民館とはどういう施設かを理解することから始めた。社会教育法において公民館の目的として、抜粋すると市町村その他一定区域内の住民のために各種の事業を行い、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とするところがある。では各種事業とは何かというと第22条にあるように、定期講座を開設すること、あるいは図書、資料等を備えたり、体育、レクリエーション等に関する集会を開催したりすること。第6項でその施設を住民の集会その他の公共的利用に供することとして貸館について述べられている。そして、第5項の各種の団体、機関等の連絡を図ること、が地域連携・学校連携につながるものと考えている。改めてかみ砕いてお話しすると、公民館の役割が何なのか考えた時</p>

に、まずは生涯学習の振興というところがメインで謳われているところ。また、それは何かといえば機会を提供するということであると考えて。コミュニティ・スクールの話にもあったように「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の三つの機能があって、「つどう」に関してはサークルの活動や図書室、館内の施設に来て、という場を設けている。「まなぶ」に関しては市川市に関しては年間2季の主催講座を実施している。「むすぶ」に関しては今回テーマとなっている地域の学習の支援、学校連携、地域連携というところになっていると考えている。また、社会教育課から出された令和5年度の運営方針に学校・地域の連携強化について盛り込まれたことから、今年度中に何ができるかを考えながらここまで来ている。また、コロナ禍で「交流」と付くものが軒並み進められない状態だったので、まずはどういった仕組みが作れるかということを考えてきた。では、地域連携でまず何を意識するかというと、「地域」ということばは漠然としていてイメージするものが色々異なると思う。自分の方ではここを「人」と読み替えた。「地域づくり」は「人を取りまく環境づくり」と意識すべきだと思っている。また、「地域連携」は「人のつながりづくり」と捉えて進むべきと考えた。そして、市川市の中でも地域ごとに多様な性格があるので、一概にやるよりも必要に応じた対応を公民館では行うべきであると考えている。

館として取り組みたいこととして大きく二つある。一つは「柏井公民館のやり方を真似る」ということ。先ほど、ギャラリーの話があった。西部公民館でもロビーでサークルの絵画や写真を展示していたが、ここに「コミュニティギャラリー」のやり方を導入していきたい。次に「再現可能なアプローチを考える」こと。先ほど「人」を意識するというのを申し上げたが、地域にはキーパーソンとなる方がいて、その方々をつながなくては中々進んではいけないと感じている。なので、一定の仕組みが出来上がるまでは熱い気持ちを持った人がつながって再現可能なアプローチを構築していくことが重要と思っている。結果的に、これを進めていくことで、どの公民館でも取り組める汎用的な仕組みを目指していきたい。

具体的な進め方として、まず「官民施設の洗い出し」。地域には様々な要素があり、文化施設や福祉施設などがどこにあるのかをマッピングしていく。そうすることで地域の実情に応じた運営や地域資源について再確認していきたい。二つ目として公民館の利用団体に対し連携できる活動内容にどのようなことがあるか調査し、リスト化していくこと。これが最終的に「人材リスト」となって学校など地域の施設とマッチングさせる材料にしていく。そして、最後に「関連施設との協議」として学校運営協議会等実質的な場所でミーティングをしていく。という三つのステップを踏んでいきたいと考えている。

例えば、一つ目のマッピングについては地域にどのような施設があるのか、どのような地形があるのか、あるいは自然、歴史、文化に関わるイベントがあるのか、どのような施設と連携できるのか、自治会など地域団体とどのように連携できるのかを地図に落とし込んでいく。これは館長が一人で作るものではないので、学生と協力するなどして、皆さんで地域を確認していくというやり方もあると思っている。

また、二つ目に紹介したアンケートについては2月に実施したところであり、細

	<p>かな集計ではないが概略だけお話しする。登録サークル約150団体のうち半数ほどにアンケートを配布し、その8割弱から回答があった。質問の内容として、一つ目は「サークルとして活動の交流に協力できるか」、二つ目が「構成員の中で特別な経験・知識がある方がいるか」である。一つ目の質問には52%が協力できると回答があった。その中で最も多くあった意見としては活動の見学であった。こちらは36件中29件なのでほとんどの団体が可能ということであった。次に多かったのが体験でこちらも6～7割が可能とのことだった。一方、学校で活動することを念頭においた団体は少なかった。続いて二つ目の質問について「ある」との回答は3割弱であった。書道・着付け・和太鼓といった文化系のものから卓球、太極拳など運動系のものもあった。これはあくまで意向調査なので今後はなしが進む中で具体的な協力の方法を考えていきたい。</p> <p>まとめると、これまでは「つどう」「まなぶ」が公民館活動のメインであったが、これからは「つなぐ」こと、連携することに力を入れていく。また、地域の実情に合った事業展開を意識する必要があること。そして、熱い思いの人が集まることは大切だが一過性で終わらないよう汎用的な仕組みを構築すること。この仕組みは先ほど申し上げた三つのステップによってなされることである。</p> <p>今日の会議には関係各課の課長もおられるので、アイデアがあれば一緒に結びついてやっていきたいし、委員の皆様も団体などで何かアイデアがあればご助言いただきたい。今後は学校運営協議会などに直接足を運んで話をしていきたいので今後もよろしくお願ひしたい。</p>
千坂委員長	<p>ここまで両館長の説明も含めご意見・ご質問はあるか。</p>
望戸委員	<p>柏井公民館の地域に応じた取り組みという点では大野高等学園との連携で生涯学習を実現していくことは素晴らしいと感じた。市川市の今日的課題の中で不登校の児童生徒の支援に向けてといるところと、これからの公民館の地域を繋ぐ活動というのはどのように繋げていくのか。あるいは公民館と地域とのつながりを見ながらそういったものも進めていくということなのか。具体的なものがあれば伺いたい。</p>
杉本館長	<p>公民館の立場としては、不登校児の支援という部分については今日の会議ではっきり明示され、今後は公民館が受け皿になる、役割を担っても良いのだと認識を新たにしたところである。なので、まだ具体的なものというのはない状況である。</p> <p>これからの公民館と地域をつなぐ活動に関して、学校との連携については自身の強みを活かした部分はあるが、地域の学校側の協力も非常に大きかったと感じているので、更に地域の皆さんの協力が得られる、つながりを持てる状態になればより大きな力添えをいただけると感じているので、今後は自治会、福祉施設とのつながり、何よりも地域住民とのつながり、ここをどのようにアプローチしていくか、その強化の第一歩としてコミュニティギャラリーに地域の方の展示、サークル協議会の方の展示からつながりが作れたら。公民館からの発信で「どうやら公民館楽しそ</p>

榎本課長	<p>うだぞ」と思っていたいただけるようなイベントの企画立案・実施に至れば。実際2月に落語やシャンソン鑑賞を企画実施したところ高齢者からも好評をいただいたので、主催講座にプラスアルファしながら色々取り組んでいきたい。</p> <p>私からは教員の業務改善について補足する。学校教育部で教員の働き方改革を取り組んでいるところであり、その一つとして具体的には不登校支援の人材確保があるが、実際、いくつかの学校運営協議会からもご意見としていただいているところである。ある学校からは不登校の児童生徒に対し見守りや旗持ちなど些細なきっかけから声をかけたり、小さい頃から見守っている地域の方がいたりするんだ、ということ、個人情報の絡みもあるので細かいところまで言えないかもしれないが、知らしめていきたいという話を伺っている。また、公民館長や職員が関わっていく際にこうした情報を共有することで、より地域での繋がりを深くできると考え、今回内容に含めさせていただいたところである。</p>
藤城委員	<p>普段自分の団体では、産前産後のお母さんを支援する活動を主にやっており、「集いの広場」の運営も委託されている。以前、団体の代表が社会教育委員を務めていた折に当時の第六中の校長とつながりができ、その後10年余り第六中の生徒を対象に「命の授業」をやってきた。また、1, 2年生の希望者を対象に「赤ちゃんとのふれあい体験」も行った。その際に協力してくれたお母さんが、鬼高公民館での移動広場、公民館を会場とした集いの広場事業の一環であるが、それに参加していた方だった。今後、公民館が子どもたちのサードプレイスになっていく流れがあるならば、我々の活動に参加している親御さんたちも地域に貢献したいと思っている方が多いので、協力できる余地があるのではないかと。そこから生まれる交流や、お互いにとってプラスになることができるのではないかと思った次第である。</p>
千坂委員長	<p>藤城委員の団体のお話は、貴重なお話だったと思う。中学校ブロックごとに概ね1館公民館があるはず。そこでの連携は重要で、学校を通すことで支援ができる方がいるという情報も得られるかもしれない。公民館からの発信、学校運営協議会の場での周知など、学校側は受け身な場合もあるので、地域の側からの発信が大事であると感じた。委員の皆さんも様々な活動をされておられるので、自分のところではこういうことができそうだとかあれば出していただくと良いかなと思う。</p>
野澤委員	<p>公民館では様々な活動を行っている方々がいる。学校の方からも公民館に対して。「こういったことができる方がいないか」、公民館からも利用者に対し「学校でこういう人を探しているがどうか？」と投げかけ合えるようになればより良い連携ができるようになると感じた。</p>
千坂委員長	<p>野澤委員のお話を踏まえると、学校運営協議会に公民館長が参加する機会が増えていくと、公民館と学校・地域の距離が近くなり連携が進むと言えそうだ。</p>

<p>逸見委員</p>	<p>今回の議題に関する部分は学校と公民館のどちらが主体で進めるものなのか。立場によって進め方や考え方に違いがあるものだと思うので、まずはそこをはっきりさせた方が良いのではないかと。仮に公民館が主なのであれば、市民に対し公民館がどれほど認知されているのか把握しておく必要があるだろう。そういった基礎的な部分がしっかりしていないうちに「こういうことを進めたい」と言っても中々進んでいかないのではないかと考える。また、現時点ではアイデアの段階だと思うが、目標をどこに置くか、どういった段階に至れば上手くいったといえるのか。公民館、学校共に人事異動があるので、人が変わっても続けられるような目標設定はした方が良いのではないかと。</p>
<p>千坂委員長</p>	<p>今回の議題は学校と「社会教育施設の連携・協働について」の報告なので、スタートの話は無いので、確かに初めて聞く方からするとどちらが主体なのかという感じを受けられるのはあるだろう。これについては、改めて連携のスタートがどこなのかということの説明する機会があると良い。</p>
<p>榎本課長</p>	<p>資料中にある市川版コミュニティ・スクールの仕組みが考えられたのは随分前のことであるが、全校で実施されたのは平成31年度のことである。実際、手探りで運用されている協議会もある中で地域とのつながりに関しても学校によって温度差がある。こうしたところで、既に5館の館長・職員が協議会に参加してくれているので、これがより広がっていくことで、地域のパイプ役となって、コミュニティ・スクールを盛り立てていただきたいというニュアンスである。学校の理解が進んでいない、という話もあったが、現在当課には6名の教員籍の職員がいる。彼らが学校に戻った時にコミュニティ・スクールの理論を浸透させてもらえればと思って頑張っているところであり、そういった中で今回の機会があったことから現状の事例を踏まえて、今後も無理のない範囲で公民館にも参画してもらい「地域に何が必要なのか」、「学校に何が必要なのか」、また学校でも「何を求めて良いのか」がわからないという声もあるので、認識を深めていきながら皆でやっていきたいところである。</p>
<p>富田副委員長</p>	<p>コミュニティ・スクールについては聞き慣れない方もいるかと思うが、学校と地域がひとつになって子どもたちの健全育成や学校生活の充実が図れるようやっている中で、公民館とも協力して、子どもたちの安全安心のため何かできないかを考えている。実際、鬼高小にも公民館長が協議会に委員として参加しているので、具体的な話は進んでいないが、子どもたちの居場所づくりとして、子どもたちの面倒を公民館で見られないかという話しを進めていきたいと思っている。また、不登校児の支援についても、別の自治体で「学校に行けないなら図書館においで」と図書館で勉強していても良いような取り組みがあると聞いたことがあるが、そのような形で図書館だったり公民館だったり勉強しても良い場所がある、居場所があると子ども</p>

伊藤委員	<p>もたちの気持ち的にも違ってくるのではないか。また、学校に来てクラスに入らず校長室で勉強したり、SSSの方が付きっきりで面倒みたりという子もいるのでそういうことの支援に繋がればと思うのでご協力をよろしくお願ひしたい。</p> <p>公民館5館から学校運営協議会委員に参加していただいている話があったが、自分の学校では委員を選ぼうと、最大15人設置できるところを13人で始めた経緯があったので、この3月末の時期にでも、公民館だけの説明になっても良くないかもしれないが、手段のひとつとして、館長や館の職員に資料を共有するなどしてPRしていただくと良い。信篤公民館とは予めから「つながりアート展」としてブロック内の小・中学校、県立南高校、特別支援学校の美術作品をひと月毎に展示する取り組みがあるが、地域を結ぶということで、展示以外でも講座などでの連携もできるのではないかと思うので、「こういうことができる」というリストがあると必要に応じて活用できるかな、と思った。</p>
千坂委員長 事務局 千坂委員長	<p>最後に、連絡事項等はあるか。</p> <p>次回社会教育委員会の開催については、年度が明けてからの開催となる。改めて日程調整の連絡をさせていただく。</p> <p>ほかに無ければ、本日の会議はこれで終了とする。</p>